スポーツくじ
WINNER toto BIG

2024
No.111
Spring

Dance Dance Dance
ダンス ダンス ダンス

ダンススポーツ普及中長期計画

長野県DS連盟　創立30周年記念式典・祝賀会

全日本シニア&ジュニア10ダンス選手権

PD部門に絶対評価審判方式を本格導入

http://www.jdsf.or.jp

公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

監事就任挨拶

ダンスは楽し、見ても良し、踊っても良し

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）
監事　**小野　智史**

昨年６月に、神奈川県DS連盟の相談役であるとともに、JDSF監事に就任いたしました。私は、日本で一番大きな市連盟である横浜市DS連盟会長、そして、全国で2番目に会員数の多い神奈川県DS連盟会長を務めてきました。

ダンスを始めたのは50歳に近づいてからです。始めたとは言っても、活動は当初、月に１～２回、覚えの悪い劣等生で、何度やめようと思ったかわかりません。

1975年（昭和50年）、日本の公共放送であるＮＨＫ（日本放送協会）に正職員アナウンサーとして入局以来、マスコミに席を置いていたことから、練習中でもいつ会社からの呼び出しがくるかわからない状況でした。実際に、競技会の最中に呼び出されたこともあります。こうした環境の中でも続けてこられたのは、ダンス仲間の励ましがあったからです。又、ダンスをしている時間が、心休まるひと時だと感じたからです。

若い時に始められた方には及びませんが、ねんりんピック（全国健康福祉祭）には、横浜市代表として2回出場する機会に恵まれました。又、一昨年は、開催県として実行委員長も経験しました。私のダンスの原点は、「ダンスは楽し、見ても良し、踊っても良し」です。

16年前、私が横浜市南区ダンススポーツ連盟の理事長になったときに掲げたのは、「ダンススポーツの普及」でした（横浜市には市連盟の下に区連盟があります）。当時は、会員数が減少するなどということは考えられませんでした。しかし、私はいずれ減少に転ずると考え、初心者を増やし、サークルを増やすことを目指しました。そのためには、ダンスを見て、踊ってもらって、楽しさを味わってもらうことが一番です。

柱は、「初心者講習」と「ダンスフェスティバル」で、まず始めたのが「初心者講習会」です。最初の３年間で、講習会に参加した人たちを中心に３サークルを誕生させました。その後は公共施設で講師を依頼されて、現在まで初心者の育成に関わっています。

もう一つは、ダンスを楽しんでもらおうという「フェスティバル」です。私の地元、横浜市南区ダンススポーツ連盟のフェスティバル（年4回）では、毎回、120人以上が参加して盛り上がります。年に一度はゲストを迎えて開催します。また毎年、チャリティーフェスティバルを行ない、地元の社会福祉協議会に寄付をしています。今年の1月8日は、直近で起きた能登半島地震の募金も行ないました。地域連盟では、社会貢献事業も大切な要素です。

☆　☆　☆

ここから話は変わり、JDSFについてです。JDSFでも、上記と同じような内容が今後要求されると思います。そして、これからの3年間が、正念場です。

私が考えるこれからのJDSFの課題は、三つ。

- **10ダンスでは、コロナ禍で大幅に減った会員数を、これからどのようにして増やしていけばよいのか？**
- **ブレイキン部門では、2028年ロサンゼルス五輪では、五輪種目に採用されなかったことから、2024年パリ五輪以後、その熱気をいかにして持続させていくのか？**
- **2028年の長野国民スポーツ大会で公開競技となったダンススポーツを正式種目とさせる道筋をどう構築していくのか？**

三つの課題に向けた素晴らしい理念が、JDSF事務局・執行部で練られています。これからは、理念を具現化することが求められます。そのためには、地域に根を張り、地道にコツコツと普及や競技活動を行なっている全国47都道府県連盟と連携し、協調して活動していくことが大事ではないかと考えます。例えば、地域連盟主催のフェスティバルや講習会へのトップ選手の派遣、運営支援等。また、様々な能力（IT・催事運営・調整能力等）を持ったダンス愛好者の協力も必要です。

監事としては、これらのことを踏まえて、JDSFの道筋をきちんと見守っていきたいと考えています。

「第28回ねんりんピック山口2015大会」で横浜市選手団旗手として行進する筆者

「第34回ねんりんピックかながわ2022大会」にて。実行委員長を務めた筆者（左）と福田紀彦川崎市長（中央）、布村幸彦JDSF会長（右）

JDSFが目指す社会の実現に向けたダンススポーツ普及中長期計画

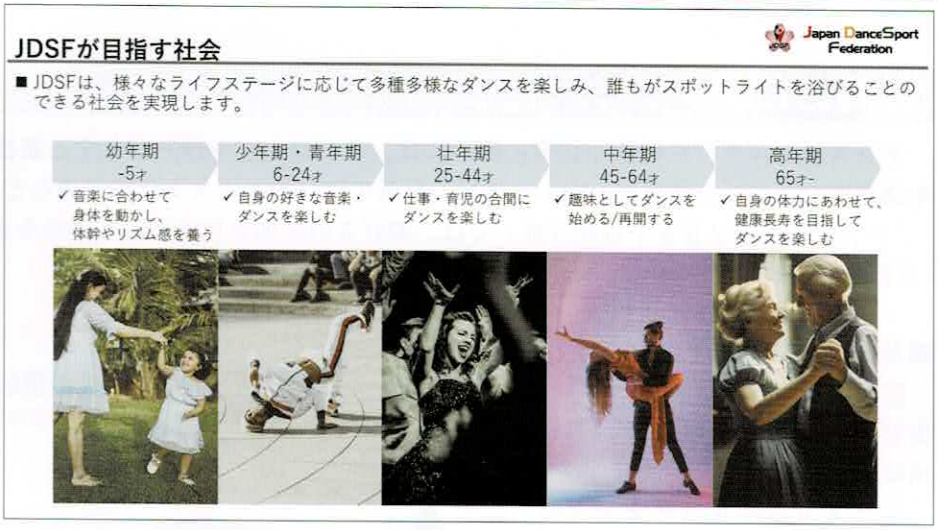
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟　専務理事　**中道　俊之**

計画策定の背景

JDSFは、2023年2月26日（日）京王プラザホテル（新宿）において開催されたJDSF創立45周年記念式典当日、式典会場においてJDSF新ビジョンを発表しました。

その背景には、45年前に開始した「めざせオリンピック！」活動が2024年パリ大会において「ブレイキン種目」で花開き、連盟創立時からの大目標であった「国体参加」も、2028年長野大会から公開競技として決定するなど、大きな一歩を踏み出すことになった一方で、ダンス人口の高齢化減少、さらにはコロナ禍の影響で都道府県連盟活動が疲弊するなど様々な環境変化に対応していく必要に迫られていました。

JDSF新ビジョンは、Mission（ミッション）　Vision（ビジョン）　Value（バリュー）の3つで構成されています。



Mission（ミッション）　JDSFは新たなダンス界の未来を創り出し　人々に躍動的なエネルギーを届け日本中を幸せな気持ちで満たし続けます

オリンピックを目指す競技スポーツとしてのダンスのみならず、老若男女誰もが楽しめるダンスを通じて、多くの国民が、いつまでも若々しく・健康で・恰好よく「人生を舞う」社会を実現します

Vision（ビジョン）　～誰もがスポットライトを浴びる世界へ～

「体験」の質に徹底的にこだわり抜き、熱狂の渦を作りだし、そこでしか味わえない最高の感動体験を生み出し続けます

Value（バリュー）　JDSFはミッション、ビジョンを実現するため5つの視点を大切にします

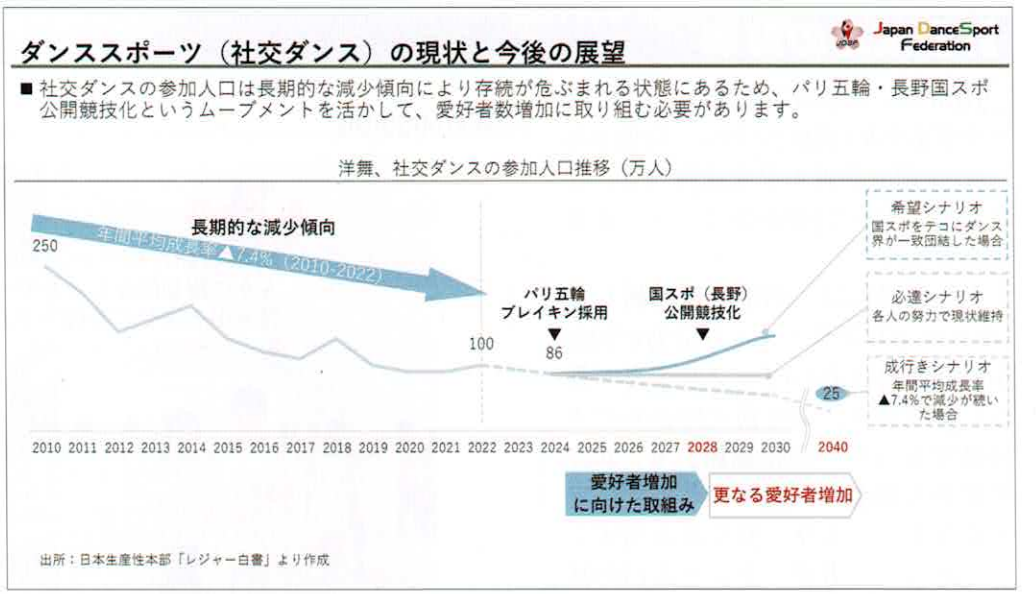
これは私たちが共有する価値観であり、全ての会員が行動する際の基本です

フェアネス　リスペクト　パッション　ファッショナブル　レジリエンス

このように、JDSFは様々なライフステージに応じて多種多様なダンスを楽しみ、誰もがスポットライトを浴びることのできる社会を実現するとしていますが、現実を見た時、社交ダンスの参加人口は長期的な減少傾向により存続が危ぶまれる状態にあります。2008年をピークに始まった日本の人口減少とともに当連盟の会員も減少しはじめ、4万人いた会員が1万8千人台にまで落ち込んでいます。この現象は、人口減少だけでなく、会員の高齢化、エンターテインメントの多様化等々、複合的な要因で起こっていると考えられ、このことはJDSFだけの問題ではなく、愛好者全体が減少するというダンス界全体の問題でもあります。

レジャー白書（日本生産性本部）によると2022年度の社交ダンスの参加人口は90万人と推定され、2010年から2022年までの年間平均成長率が－7.4％となっています。このまま何も対策を講じなければ2040年には現在の4分の1の25万人にまで減少してしまいます。私たちはパリ五輪・長野国スポ公開競技化というムーブメントを活かして、愛好者数増加に取り組まなければなりません。あらゆる垣根を越えて、すそ野の拡大に尽力し、ダンス文化の発展を実現しなければなりません。

ダンスにはストリート系ダンスやバレエ等いろいろなジャンルのダンスが存在しています。その中でもダンススポーツ（社交ダンス）は、何歳でも踊れ、多様な音楽で踊れることからダンス愛好者の受け皿、ダンスライフの初めの一歩になり得ます。社交ダンスを楽しむ環境を整備することは、JDSFが目指す社会の実現に向けて必要不可欠です。



計画の概要

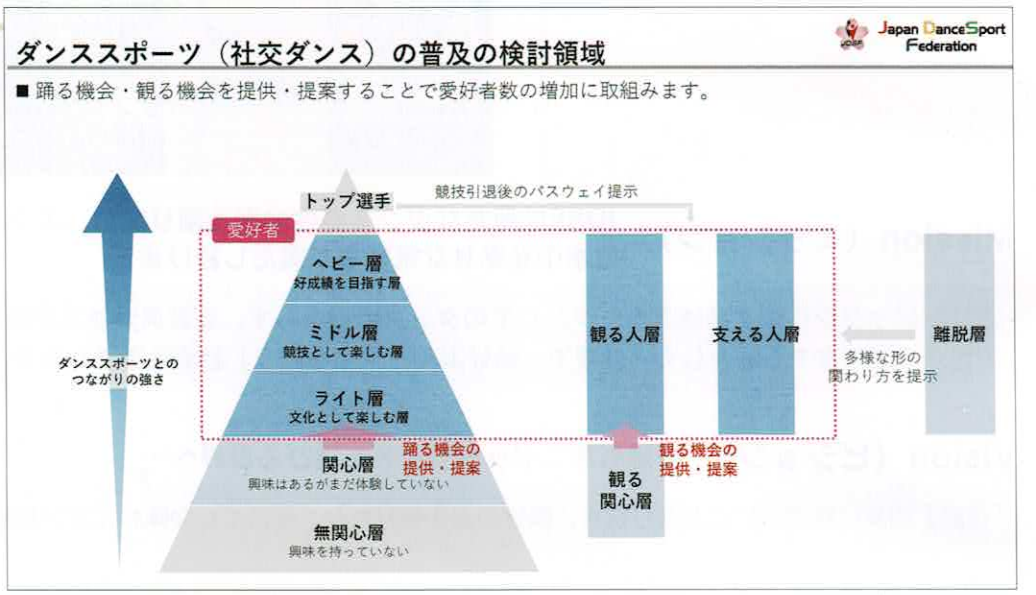
ダンス界全体を持続可能な状態に保つには、トップ選手をはじめとする競技者の競技力向上とともに愛好者の増加や認知度を含む社会的地位の向上、国民の日常生活へのダンス文化の浸透なども重要です。

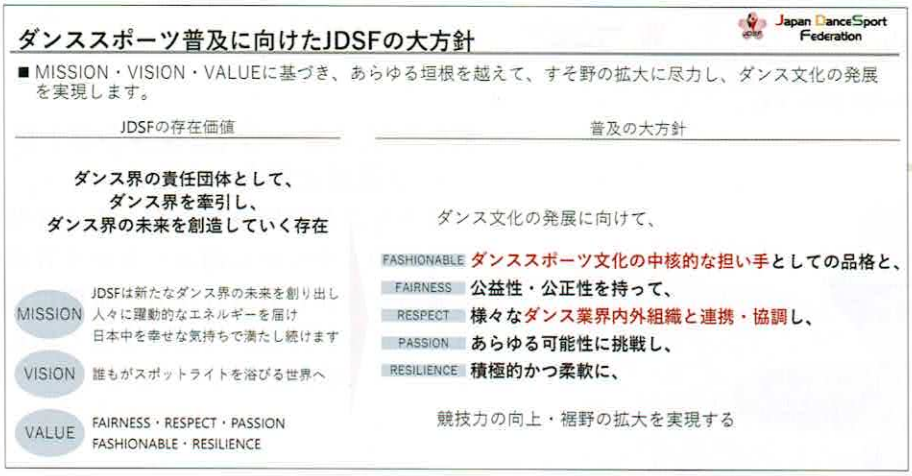
「ダンススポーツ普及中長期計画」では、愛好者の増加を目的とした活動を進めていくための「検討領域」「大方針」「目標設定」「ストーリー」「取り組みテーマ」などについて整理しました。

■普及の検討領域

踊る機会・観る機会を提供・提案することで愛好者数の増加に取組みます。

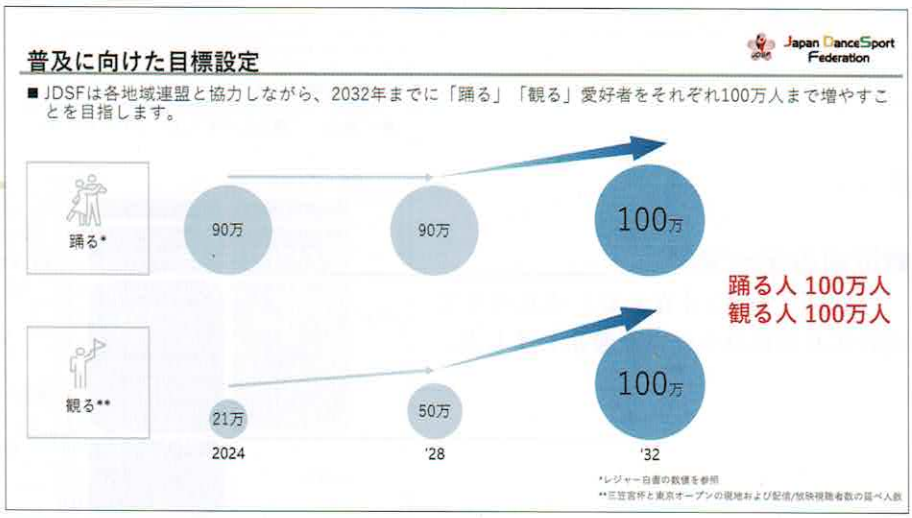
ダンススポーツ（社交ダンス）の愛好者数増加を実現するためには、「踊る人」だけでなく「観る人」「支える人」も含めて検討していく必要があります。興味はあるが体験したことのない「関心層」に対して踊る機会の提供・提案をするとともに観てみたいと思っている「観る関心層」に対してメディアやSNS等によって観る機会の提供・提案をし「観る人」を劇的に増やすことも大きなテーマとなります。また、何らかの理由でダンススポーツ（社交ダンス）をやめたり、遠ざかっている人に対しては多様な形の関わり方を提示して「支える人」として継続することを働きかけていきます。





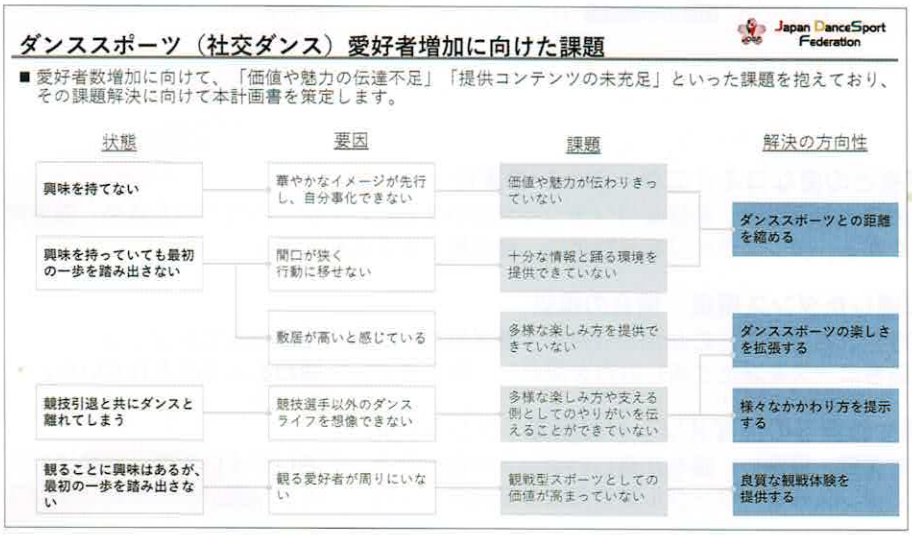
■普及に向けた大方針

MISSION・VISION・VALUEに基づき、あらゆる垣根を越えて、すそ野の拡大に尽力し、ダンス文化の発展を実現します。



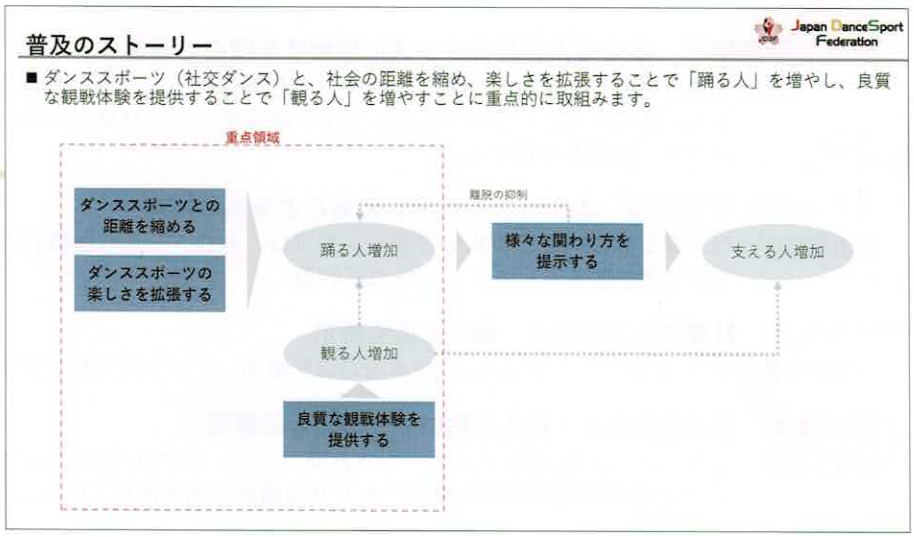
■普及に向けた目標設定

JDSFは各地域連盟と協力しながら、2032年までに「踊る」「観る」愛好者をそれぞれ100万人まで増やすことを目指します。



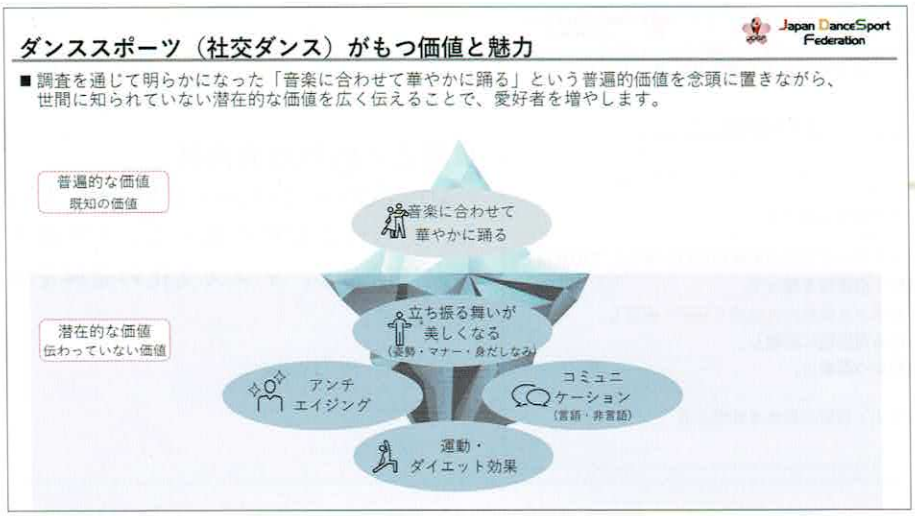
■愛好者増加に向けた課題

愛好者数増加に向けて、「価値や魅力の伝達不足」「提供コンテンツの未充足」といった課題を抱えており、その課題解決に向け取り組みを行います。



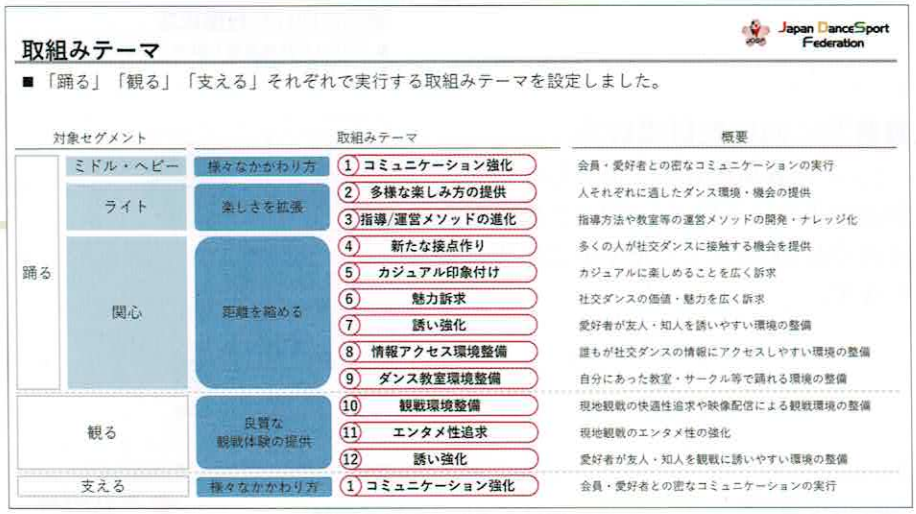
■普及のストーリー

ダンススポーツ（社交ダンス）と、社会の距離を縮め、楽しさを拡張することで「踊る人」を増やし、良質な観戦体験を提供することで「観る人」を増やすことに重点的に取組みます。



■ダンススポーツ（社交ダンス）がもつ価値と魅力

調査を通じて明らかになった「音楽に合わせて華やかに踊る」という普遍的価値を念頭に置きながら、世間に知られていない潜在的な価値を広く伝えることで、愛好者を増やします。



取組みテーマ

Japan DanceSport Federation

■「踊る」「観る」「支える」それぞれで実行する取組みテーマを設定しました。

対象セグメント		取組みテーマ		概要
踊る	ミドル・ヘビー	様々なかかわり方	① コミュニケーション強化	会員・愛好者との密なコミュニケーションの実行
	ライト	楽しさを拡張	② 多様な楽しみ方の提供	人それぞれに適したダンス環境・機会の提供
			③ 指導/運営メソッドの進化	指導方法や教室等の運営メソッドの開発・ナレッジ化
	関心	距離を縮める	④ 新たな接点作り	多くの人が社交ダンスに接触する機会を提供
			⑤ カジュアル印象付け	カジュアルに楽しめることを広く訴求
			⑥ 魅力訴求	社交ダンスの価値・魅力を広く訴求
			⑦ 誘い強化	愛好者が友人・知人を誘いやすい環境の整備
			⑧ 情報アクセス環境整備	誰もが社交ダンスの情報にアクセスしやすい環境の整備
			⑨ ダンス教室環境整備	自分にあった教室・サークル等で踊れる環境の整備
観る		良質な観戦体験の提供	⑩ 観戦環境整備	現地観戦の快適性追求や映像配信による観戦環境の整備
			⑪ エンタメ性追求	現地観戦のエンタメ性の強化
			⑫ 誘い強化	愛好者が友人・知人を観戦に誘いやすい環境の整備
支える		様々なかかわり方	① コミュニケーション強化	会員・愛好者との密なコミュニケーションの実行

■取組みテーマ

「踊る」「観る」「支える」それぞれで実行する取組みテーマを設定しました。

踊る人向け

①コミュニケーション強化　会員・愛好者との密なコミュニケーションの実行

目指す状態：大会／パーティー／ダンスとの関わり方など、多様なコンテンツを提供するとともに、会員の声を集め、双方向のコミュニケーション活性化を図る。ダンスライフを長期化し、踊る層／支える層が増えている。

②多様な楽しみ方の提供　人それぞれに適したダンス環境・機会の提供

目指す状態：大会のみならず、ライトに続けられるダンスとのかかわり方や、健康維持／増進に主眼をあてたダンス、エンタメ特化の交流会など、多彩な顧客ニーズを満たす楽しみ方を提供し、長くダンスに関わる人であふれている。

③指導／運営メソッドの進化　指導方法や教室等の運営メソッドの開発・ナレッジ化

目指す状態：高品質な指導／運営メソッドを開発・提供し、誰もが楽しいダンス体験ができ、上達しやすい指導方法を確立するとともに、体験プログラム／ダンス教室／サークル運営方法が形式知化されていて、教室／サークル／ダンスイベントが活性化している。

④新たな接点作り　多くの人が社交ダンスに接触する機会を提供

目指す状態：地域社会や、他スポーツ、ブレイキンなど他ジャンルダンスとのつながりを強化することで学校周辺／地域イベント／お祭りなど、多世代に対してダンススポーツ（社交ダンス）と触れる機会を創出し、音楽のある所にダンスがある世界を実現する。

⑤カジュアル印象付け　カジュアルに楽しめることを広く訴求

目指す状態：ペアダンス以外に、グループダンスやソロ、カジュアルな服装での参加など、老若男女誰もが多様なダンススタイルで楽しめることが広く知られている。

⑥魅力訴求　社交ダンスの価値・魅力を広く訴求

目指す状態：マス、デジタル、リアルなど、様々な方法を駆使してダンススポーツ（社交ダンス）の魅力が多くの人に伝わっている。

⑦誘い強化　愛好者が友人・知人を誘いやすい環境の整備

目指す状態：会員一人一人が、ダンススポーツ（社交ダンス）のアンバサダーとしての誇りと連帯感を持ち、活動できるよう、JDSFと各都道府県連盟がサポートできる環境が構築されている。

⑧情報アクセス環境整備　誰もが社交ダンスの情報にアクセスしやすい環境の整備

目指す状態：ダンススポーツ（社交ダンス）を始めるうえでの基礎情報を誰もが取得できる環境を作り、社交ダンスを始めるうえでの不安が取り除かれている。

⑨ダンス教室環境整備　自分にあった教室・サークル等で踊れる環境の整備

目指す状態：性別／年齢／地域／経済／障害に関わらず自分に合った、楽しく、活気にあふれた教室やサークルでダンスを楽しむことができる。

観る人向け

⑩観戦環境整備　現地観戦の快適性追求や映像配信による観戦環境の整備

目指す状態：観戦型スポーツとして、快適性や利便性を高め、他スポーツ興行／エンタメ興行にひけを取らない観戦者の体験価値を創出することで、満員御礼の現地観戦と様々なメディアで視聴できる大会が開催されている。

⑪エンタメ性追求　現地観戦のエンタメ性の強化

目指す状態：ダンススポーツ（社交ダンス）に触れたことがない人でも魅了されるよう、音・光などの演出強化や選手を軸としたコンテンツの充実によって大会のエンタメ性を高め、また観たい、踊ってみたいと思えるような大会が開催されている。

⑫誘い強化　愛好者が友人・知人を誘いやすい環境の整備

目指す状態：出場選手自身が観戦を呼び掛けるとともに、ダンススポーツ（社交ダンス）ファンが新たなファン候補を誘い、満員の大会が開催されている。

支える人向け

⑬コミュニケーション強化　会員・愛好者との密なコミュニケーションの実行

目指す状態：大会／パーティー／ダンスとの関わり方など、多様なコンテンツを提供するとともに、会員の声を集め、双方向のコミュニケーション活性化を図る。ダンスライフを長期化し、踊る層／支える層が増えている。

計画実行体制とスケジュール

■取組みテーマを横断的に計画･実行する分科会を設置し､関係各所と連携をしながら施策を展開します。

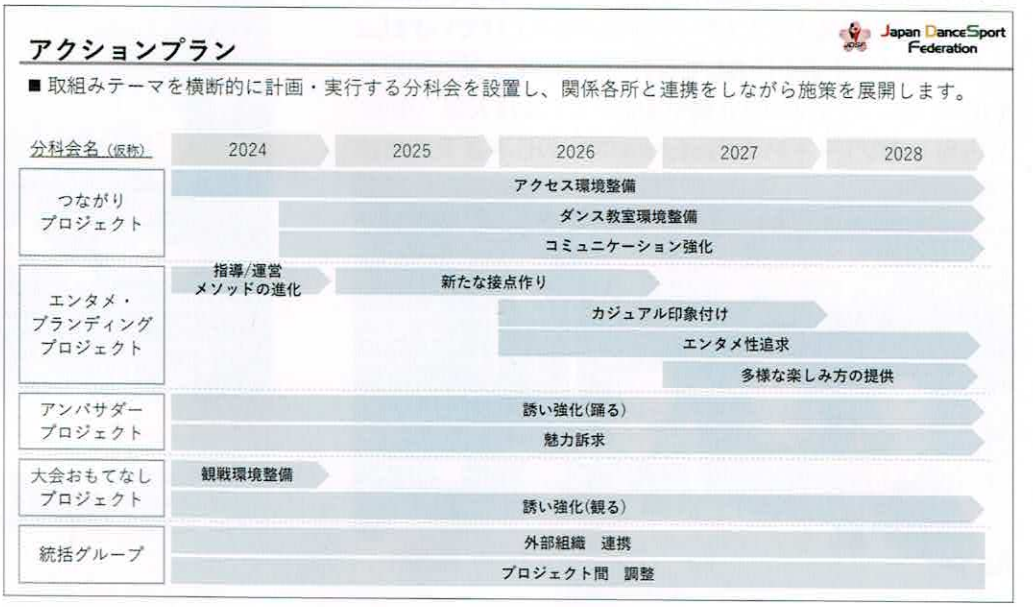
JDSFでは「ダンススポーツ普及中長期計画」に定める取組みテーマを横断的に計画・実行する分科会を設置し、関係各所と連携しながら施策を展開して参ります。かつて、人口が増え、経済も右肩上がりの頃は愛好者が自然に増えていましたので、連盟は会員満足の向上に向けた様々な事業を計画し、実行することが主な役割でした。その後、高齢化や人口減少など複合的な要因で会員の減少が続き､コロナ禍を契機に多くの地域連盟で減少傾向が顕著になっています。

あの「昭和の時代」とは全く異なる環境の中で、愛好者の増加を目指すといってもハードルは高く、様々な活動を試みても期待した成果があがらず苦戦されている関係者もおられると思います。

私共が目指しているダンス愛好者の増大、ダンス文化の再構築は、1つの競技団体だけの力では限界もあり、業界やジャンルを超えた多様なアイディア、視点が必須です。私共のビジョンに共感、賛同してくださる皆様方のお力添えをいただくことによって「より確かに」「より早く」実現することが可能になると考えております。

全国各都道府県連盟の皆様にとりましては、その地域の歴史、文化、風土、県民性などで考え方や価値観も異なりますのでそれぞれの地域にとって取り組みやすいテーマから、取り組みやすいやり方で実践していただくのが現実的と考えております。

全国統一方式を一斉に行なう方法から、それぞれの地域がその地域の実情にあわせた独自の取組みを創意工夫することによって展開していく方法が持続的な取組みとして定着するものと期待しております。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



長野県ダンススポーツ連盟 創立30周年記念式典・祝賀会 (DANCESPORTS AWARD NAGANO 2024)

開催日：2024年1月21日（日）　会場：ホテルブエナビスタ（松本市）

長野県ダンススポーツ連盟は、長野県アマチュアスポーツダンス協会として設立、会員数386名でスタート。1993年（平成5年）8月、日本アマチュアダンス協会（JADA：現在のJDSF）に加盟し、初代会長・岡田明義氏を中心に「さわやか信州・であい・ふれあい・きそいあい」をテーマにスポーツ・生涯学習の普及を目指して発展。2004年（平成16年）9月、長野県体育協会に加盟し会員も千名を超えました。2009年より高橋淳氏に会長交代、そして2017年からは現在の百瀬芳正会長へと順調に引継がれ、2018年7月には我が国初の「WDSF世界選手権シニアⅣ」を冬季五輪開催の地、長野市ホワイトリンクにおいて開催しました。

百瀬長野県DS連盟会長

布村JDSF会長

乾杯のご発声、ホテルブエナビスタの長谷川一夫営業部長

午前10時からトライアル、年間表彰やダンスタイム等の長野ダンススポーツアワードが行なわれ、これに続き、創立30周年記念式典は13時から始まりました。百瀬会長は「創立30周年の大きな節目を迎えました。ここまで築き上げた歴代役員、先輩諸氏、関係各位に御礼。そして、2028長野国民スポーツ大会の公開競技初開催（安曇野市総合体育館）に向けて、更なる普及発展に取組んでまいります。幅広い年齢層で楽しめるダンススポーツ活動を盛り上げていきましょう！」と挨拶。来賓を代表して布村幸彦JDSF会長は30周年を祝うと共に、今年のパリ五輪や2026アジア競技大会（愛知・名古屋）のブレイキン（ブレイクダンス）の日本選手の活躍を期待。さらに「2032オーストラリア・ブリスベン五輪でのブレイキン、ワルツやルンバ等の10ダンスの開催に向けて努力したい」と述べました。

長野県が誇るJDSF強化選手

元長野県連盟会長、岡田明義・祐子ご夫妻を囲んで乾杯！

（参考：同じオーストラリアのシドニーで開催された2000年五輪の閉会式では、1997年WDSFをIOCの正式競技団体に公認した時のサマランチ氏がIOC会長でもあり、500組のペア（Sport Dancers）によるダンススポーツがオリンピックスタジアムのトラック全面で披露されました）

祝宴は、連盟の行事にご協力いただくホテルブエナビスタの長谷川一夫営業部長の乾杯で始まり、2018世界選手シニアⅣの思い出の映像などが披露されました。そして昨年、2023年4月に誕生したブレイクダンス部の真鍋謹良部長の解説でブレイキンが披露されました（後述参照）。

功労者表彰式（5名）

椅子席右から、スポンサー「ポンちゃんラーメン」でお馴染み長野市の信陽食品（株）斉藤実社長、建築物施工から太陽光発電設備まで佐久市の（株）化研工業和田勝年社長、及び連盟草創期から発展に貢献されてきた有賀勇氏、河西恵子氏、鈴木誠氏（左端は百瀬芳正会長、右端は倉科和広実行委員長）

ジュニアの演技発表

サークル演技発表

NDSF杯争奪　支部対抗10ダンス選手権

長野県DS連盟（NDSF）は、長野市を中心とした北信支部、軽井沢や佐久市、小諸市等の東信支部、松本市、塩尻市等の中信支部。諏訪市、伊那市、箕輪町等の南信支部の4支部で構成されています。対抗戦は15時過ぎから始まり、大声援の中10種目が競われナイスチーム賞などが贈られました。なお、ジャッジは各県連会長が担当しました。

支部対抗選手権開会式

支部対抗戦でヴェニーズワルツを踊る
岡田初代会長ご夫妻（左）

支部対抗戦

笑顔で声援（東信支部）

長野県連盟が誇るJDSF強化選手によるスペシャルデモ

小林才時・小西乙愛組

倉科翔・伊藤梨乃組

太田佳輝&南山雄大

向山翔矢・馬場梨紗子組

長野スポーツ協会茅野専務理事、布村JDSF会長、東京都、静岡県の役員

富山県、山梨県、新潟県、栃木県会長ご夫妻

千葉県会長ご夫妻、神奈川県、茨城県会長、東京都、千葉県役員

長野県連盟記念写真　中央は能登半島地震義援金箱を持つ百瀬会長

JDSFブレイクダンス強化部ジュニア担当/長野県DS連盟ブレイクダンス部長

真鍋謹良（マナベノリヨシ）

2023年4月、長野県ダンススポーツ連盟ブレイクダンス部はスタートしました。長野県DS連盟発足30周年記念式典に、ブレイキンをご覧いただき、ありがとうございます。

JDSF強化部でジュニア担当、そして長野県ブレイクダンス部長を務めているCHOPPA→（チョッパー）です。長野県には2020年に帰郷し、ブレイキンの普及のために県内でジュニア世代の普及、指導及び育成を始めました。

普及では、長野県内に10箇所のブレイキンスクールを開校し、初めは全くいなかったジュニア選手も今では60人を超えました。指導及び育成にも力を入れており、合宿や外部講師を招いてのレッスンなども行なっております。今年度の「第5回全日本ブレイキン選手権」には予選を勝ち抜き長野県から3名の選手が出場しました。

強化部での活動は、国内外で合宿、競技会への帯同を行なっており、出場する度に進化していく選手を見て、いつも感動を頂いております。

JDSFに関わる全ての活動を通して、一番伝えたい言葉は『ありのままで楽しもう！』です。世界中のどこを探しても、自分と同じ人間はいないはずです。ブレイキンはその個性を爆発させて、音楽に身を任せて踊ることが最大の楽しみだと思います！　長野県への普及、これからも頑張ります!!

30周年式典で挨拶をする真鍋謹良ブレイクダンス部長

ブレイキン発表

髙山心愛（Mira女子13才）スキルフルなオールラウンダー（左）と、髙橋悠大（Trooper男子12才）クールなトップロックとスピードのあるバトル演技

My Dream

私のダンス人生
（天国で、見ててね！！ 我が息子へ）

宮城県ダンススポーツ連盟大崎支部　遠藤　明美

皆さん、はじめまして。私は宮城県在住の今年古希を迎えるダンス大好き、田舎の農家の主婦、遠藤明美です。

ダンスを始めたきっかけは私が農家に嫁いで7～8年過ぎた頃、今から約40年位前になります。町内のダンス愛好会に入会し、初心者でマンボやジルバ、ルンバと指導を受け、パーティなどで踊るのがとても楽しくなりました。それから踊るだけでは物足りなくなり、競技会にも興味が出てリーダーも見つかりダンス教室にも通い競技会に出場しました。家族もあり農業もしているので時間的な余裕は余りありませんでしたが、出来る範囲でダンスを楽しむことにしました。そのうち事情があり競技会から離れ、初心に戻り基本からやり直すつもりでメダルテストに挑戦。2年で一番上のスーパーファイナル級ラテン・スタンダードを修了しました。それが終わった頃、同じ教室所属でラテンＡ級の男性がパートナーと解消していたので、私から「練習相手になれたら！」とお願いし、大好きなラテンが踊れる事に大きな喜びを感じ一時期を過ごしました。練習相手ですから競技に挑戦するなど思っていなかったのですが、1月から練習を始め3月に「選手権に出場しよう！」と言われ、びっくり！

その時の成績が第3位でまたびっくり!! それから7月までの半年間、その方とラテン選手権に挑戦し、青森の大会では優勝するなど好成績が続きましたが、私の女性パートナーでの競技会はこれで終わりにしました。何故なら大好きなラテンで選手権に出場させてもらい、沢山踊らせて頂けて燃え尽きてしまいました(笑)。

第34回秋田県ダンススポーツ大会（2023年5月28日）
しみずの舞ラテンに娘さんと出場し優勝に輝いた

秋田在住の加賀谷晴子さんと

山形在住の細谷久美子さんと

東京在住の今井由香さんと

それからは自分なりにダンスを楽しんでいましたが、当時20歳の長男が不慮の事故で急逝。余りにも突然の事で心の整理がつかず、生きる屍のようになってしまい、「ダンスなどもう一生踊れない！」とシューズも捨てて家に籠る毎日。それを救ってくれたのは当時9歳だった娘の美沙です。私はこの娘の母親だし「まだ生きてていいんだ！」と思えるようにはなりましたが、人と会うのも笑う事も忘れてしまいました。それから4～5年の月日が流れた頃、「お母さん！ 大好きなダンス続けたら！」と亡くなった息子が背中を押してくれたような気がして、自分の意志で思い切ってパーティに足を運んでみました。その時、以前のダンス仲間が迎えてくれました。私も嬉しくて感謝の気持ちで胸が一杯になりました。

またここから私の第2のダンス人生のスタートです。それも男性リーダー役で！ です。男性役には前から興味があり、パーティ会場は女性が男性より多く、一人でも多くの女性と踊ってあげられる自分がいいかな、と男性役を練習するようになりました。これもまた、パーティだけでなく競技会にも出場出来たらな、と全国の競技会のシラバスの備考欄に「女性同士も可」の文字を見つけては、北は北海道、南は沖縄へと遠征。その時は同じ教室の佐々木知恵子さんと出場。それからも沢山の女性の方々と出場。そして2022年の競技規程の改訂があり、級別戦にも女性同士で出場可能になり、今ではラテンＡ級、スタンダードＢ級を取得しました。

いろんな出会いがあり、現在は秋田在住の加賀谷晴子さん、山形在住の細谷久美子さん、東京在住の今井由香さんと、遠距離カップルですが楽しく競技生活を過ごしています。心からパートナーの方々には感謝の気持ちで一杯です。また、私の人生の中で今度は娘が難病を発症し、今でも大学病院に通院していますが、命が助かっただけでもと胸をなでおろしています。その時も「また今度は、娘も失ったら…」という恐怖感もあり大変な精神状態でしたが、ダンス仲間の皆さん、友達の支えがあり乗り越えて今があります。そして何年か前から、私とダンス仲間の佐々木知恵子さんと二人で「お笑いダンサー」という名で老人施設やイベントなどに出かけ、コスプレをしダンスを披露し笑顔を届ける活動をしています。私達のダンスで会場は笑いの渦が広がります。きっと天国から「お母さん、ダンス楽しんでるね！」って息子も喜んでいることでしょう（笑）。

「お母さん、頑張るよ！」

お笑いダンサー

第9回全日本シニア10ダンス選手権
第2回全日本ジュニア10ダンス選手権
（2024年シニアⅠ、シニアⅡ、ジュニア各10ダンス世界選手権代表選考会）

2024年１月７日(日)／京都府立伏見港公園体育館

2024年（令和６年）年明け最初のJDSF公認競技会は京都での開催。1月7日午前10時、植村和正実行委員長（京都府DS連盟）の開会宣言、阪田員郭チェアパーソンの諸注意で始まりました。システムの不具合がありましたが、ステマネの谷口小夜子さん、司会の植村澄子さんの絶妙な対応で、D級ラテンの選手は体をほぐして朝一番の１曲目チャチャチャに臨みました。14時過ぎには恒例の入場行進と谷口主嘉大会会長挨拶、記念撮影が行なわれましたが、正月早々から能登半島地震、JAL機の炎上があり全員で黙祷を捧げました。

谷口会長は「シニア10ダンス選手権には全国から41組、ジュニアは９組のエントリーをいただき、欠場ゼロに感謝いたします。昨年からこの大会は”３世代が一緒に踊るお正月の祭典”となりました。私事としては昨年現役復帰しましたが、メリットとしてはよく運動するようになり楽しく競技会に出場し、全国の仲間との宴会も楽しくなりましたが、欠点が一つ、それは練習中に喧嘩が絶えないことですが、夫婦仲は至って円満です」と挨拶がありました。

植村和正実行委員長

阪田員郭チェアパーソン

初めての選手宣誓に臨んだジュニアの鈴木伶音・渡辺華凛組

役員一同　後列中央谷口会長

◀シニア10ダンス選手、役員一同

全日本シニア10ダンス選手権

第3位
内藤雄介・秋松ひとみ組（北海道DS）

優勝

石田茂之・矢野美帆子組（すみれダンススポーツクラブ）

ハートで笑顔のファイナル選手

松本武士・宮西朋代組（京都Dアスリートクラブ）

第4位

順優勝

森晃士・森仁美組（三重県DSC）

山下慶太郎・池田綾香組（名古屋市西区所属サークル）
第6位

坊田康平・藤岡由有組（富山県DSC）
第5位

全日本ジュニア10ダンス選手権

優勝

鈴木伶音・渡辺華凛組
（ジュニアアスリートクラブ）

順優勝

若山史穏・中井結愛組
（ジュニアアスリートクラブ）

第3位

原澤英大・竹之内梨音組
（ジュニアアスリートクラブ）

第4位

江田煌也・細田琉永組
（島根県安来市 BALL HALL）

ジュニア選手一同　集合写真

第5位

大羽諒・安齋佳恵組
（ジュニアアスリートクラブ）

第6位

神谷栄登・上野綾花組
（キラビーキッズ山梨）

JDSF A級戦 ラテン

優勝

藤本健治・隠地沙保組
（兵庫アスリートクラブ）

順優勝

足立理生・足立理津子組
（京都Dアスリートクラブ）

第3位

谷中和彦・金澤明子組
（大阪府）

親子で出場

JDSF A級戦 スタンダード

優勝

工藤俊和・工藤美城組
（名古屋市千種区所属サークル）

順優勝

米田憲弘・米田美砂子組
（兵庫アスリートクラブ）

第3位

加藤修久・加藤裕子組（大阪府）

シニアII A級戦 スタンダード

シニアIII A級戦 スタンダード

シニアIV A級戦 スタンダード

JDSF B級戦 スタンダード

優勝　野本誠一・滝下幸栄組
（大阪府連直）

JDSF B級戦 ラテン

優勝　小原茂祥・永田めぐみ組
（大阪府）

今年からPD部門に絶対評価審判方式を本格導入

（2024PDグランプリカップ in 東京）

審判基準委員会／PD競技部副部長　**水田　晃司**
（PD西部ブロック副委員長）

絶対評価審判方式（以下、AJS）は、2007年からグランプリ（GD）で採用されている点数方式の採点システムです。従来の順位法とは異なり項目ごとに点数評価として採点することでより詳しい結果が得られます。また、WDSFも採用しており世界共通の評価基準となっています。JDSFでは2016年にPDが発足、PD部門の競技会が盛んに開催されるようになりAJS導入の期待も高まりましたが、そう簡単ではありませんでした。ようやく2022年春ごろから再び動き出し、約1年後の昨年6月に2回のテスト競技会（6月11日関東、6月18日九州）を開催、システムや制度に問題がないことを確認し、2023年の三笠宮杯で正式に採用されるところまで漕ぎつけました。規程改定を重ね、ようやく2024年、今年の競技会においては全てのPDグランプリカップにてこのAJSを採用することが決まりました。今回はその記念すべき一回目の競技会となりました。

PD部門のAJSの特徴

今年からは、GDグランプリとPDグランプリカップの両方でAJSによる採点が行なわれますが、実は全く同じではありません。PD部門では、GD部門とは異なる特徴が大きく2つあります。ひとつはデュエル形式の採用、もうひとつは課題フィギュアの採用です（今回PDが採用したのはDタイプという課題フィギュアを実施する形式です）。

＊デュエル形式

デュエル形式とは、いわゆる対戦型のスタイルです。決勝の4種目目（今回はJive）は2組ずつの対戦（×3H）となります。フロアへ2組が登場する場面は、観客にとってもどちらを応援しようかワクワクする瞬間であり、踊り出した2組をじっくり比較して見ることができるのも、グループ競技やソロ競技とは違ったおもしろさがあります。1曲終了後には大型スクリーンに2組の点数が横並びで表示され、観客と共に今踊り終えた選手もその採点結果をその場で見ることができます。ただ実際は2組で勝ったから次に進めるトーナメントではなく、最終的には6組の採点結果により種目の順位が決定します。とはいえ、選手にとって2組ずつ踊る演出は、いつもとは違ったプレッシャーを感じることでしょう。相手が自分より強い選手の時は尚更です。

＊課題フィギュア採用

もう一つの大きな特徴は、決勝1種目目のソロ競技に導入された「課題フィギュア」です。決勝に残った選手にはあらかじめ与えられた12小節の課題を正しく踊ることが求められます。この12小節はWDSFダンススポーツ教本のシラバスより構成されたアマルガメーションで、ダンススポーツの正確なテクニックを持って踊らなければなりません。技術判定員はこのフィギュアの正確性をチェックし、ステップの間違いやフット・アクション、ポジションなどが正しくない場合などは減点することもあります。PD選手は普段、ダンス指導者としてダンス教室などでレッスンをしている人も多く、この競技において教本の正しい理解やその模範演技を求められるのも、広い知識と高い経験値を持つ最上位の指導員「PD」であるからこそと言えます。さて、今年の課題種目は、スタンダードはタンゴ、ラテンはルンバです。一年を通して同じ課題を踊ることになります。今回のグランプリカップラテンではファイナリストたちはルンバの課題演技を披露しました。

＊ルンバの課題フィギュア（2024年）

①スリー・スリーズ
②オープン・ヒップ・ツイスト
③ホッキー・スティック
④オーバーターンド・ベイシックの１～６
⑤カールの３～６（ハバネラ・リズムを使用）
⑥シンコペーテッド・キューバン・ロックス・イン・ファン・ポジション

以上の課題は、一般の愛好家にもよく知られている基本的なフィギュアと、動きやタイミングの変化があるフィギュアを組み合わせて構成されています。ファイナリストたちは、基礎テクニックと正しいフィギュアの実践が求められます。これについては、相当なプレッシャーを感じる選手もいるでしょうが、これができるのはやはりDancerでありTeacherでもあるPD選手だからこそと言えるでしょう。正しいダンススポーツテクニックの理解と実践、実力のある選手はさらに個性やオリジナリティを合わせて表現してくれることも期待しています。

今後は三笠宮杯において、ファイナルに残って課題フィギュアを踊れることがステータスとなるかと思います。大きな舞台の演出された空間の中で、ソロで課題を披露できるPD選手は、多くの競技選手やダンス愛好家の目指す存在となることでしょう。

「PDグランプリカップ in 東京」のファイナリスト

本年3月31日に開催された「2024ダンススポーツ PDグランプリカップ in 東京」(2025年 WDSF-PD 世界選手権代表取得対象競技会)のAJSの結果は、

準優勝

Kevin・河岡宏美組　218.763点

スタイリッシュな動きやシルエットを持ち躍動感のある演技を披露し、存在感も格別でした。

優勝

久保田弓椰・徳野夏海組　226.387点

前年度三笠宮杯PDラテンチャンピオンの風格とともに、スピード感と安定感を備えた演技で減点のスキがない踊りも好印象、次点に点差をつけた圧巻の優勝です。

第5位

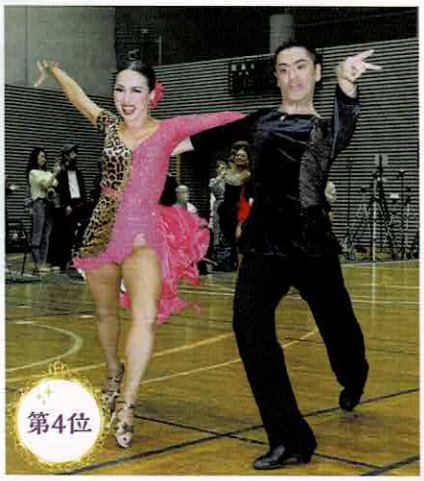
髙辻博希・岡田優美組　203.905点

西部の所属で、緩急のあるムーブメントと個性的なアクション・表現力が冴えました。

第3位

西恭平・西川真由組　212.693点

フット・ポジションも二人とも非常に正確でバランスの良さが評価できました。



第4位

岸田肇・岡田祐子組　211.691点

脚部や軸の強さもありボディ・アクションもクリアで秀逸でした。

第6位

川田悟・梅原理奈子組　200.619点

ポスチャーとバランスが良く、集団の中でも見栄えのする踊りを披露していました。

AJS導入の意義

本格的導入後、第1回目の競技会が終了したばかりですが、AJSを導入した意義は、まずスポーツ競技として公正に評価することができる点です。従来の順位法では、1位、2位、3位と順位はつくものの、実際の点数や採点の差は明確になりません。しかし、AJSでは種目ごとの採点でほぼ同点が出ることもあれば、大きな点差が開くこともあります。これにより、圧勝で優勝したのか、接戦を制したのかは結果からはっきり分かります。また、どの評価基準（PCS）で点数が良かったのか、悪かったのかも明瞭です。ミスをした場合には、技術が卓越していようが、それに見合った減点が行なわれるという点も、スポーツ競技の採点として重要です。このような素晴らしい採点システムは、JDSFが持つ大きな財産であり、PDグランプリカップでその採点システムを実施することこそ、本来のJDSF-PDのあるべき姿と言えるでしょう。

現在PDグランプリカップで採用されている審判方式決勝５種目戦総合得点表

競技１（ソロ）			競技２（グループ）		競技３（グループ）		競技４（デュエル）		競技５（グループ）		Total
TES	PCS	一般減点	PCS・基準点	一般減点	PCS・基準点	一般減点	PCS・基準点	一般減点	PCS・基準点	一般減点	
15.00	40.00	0.00	55.00	0.00	55.00	0.00	55.00	0.00	55.00	0.00	最高点 275 (GOE±9)
55.00 (GOE±9)			55.00		55.00		55.00		55.00		

第5回 全日本ブレイキン選手権

JDSFブレイクダンス本部選手強化部長
渡邊　将広（JOCナショナルコーチ）

日本経済新聞

菱川が初V 絶対王者破る

全日本ブレイキン 女子は福島3連覇

準決勝、半井重に初勝利

技に磨き、集中も切れず

半井重3位、底力示す

2/19付・日本経済新聞朝刊

初優勝を飾った ISSIN（菱川一心）

3連覇に輝いた AYUMI（福島あゆみ）

2024年2月17日(土)、18日(日)の2日間、東京のNHKホールにおいてブレイキン日本一を決定する「第5回全日本ブレイキン選手権」が開催されました。本大会は、2023年度のポイントランキング上位の選手のみが出場できる大会で、会場には3,000人以上の観客が集まり、18日の16時からはNHK総合テレビで全国に生中継されました。

B-BOY部門では、4連覇を狙う絶対王者でパリ五輪出場権を獲得したSHIGEKIX（半井重幸）と、初優勝を狙うISSIN（菱川一心）が準決勝で激突。ISSINは国内外の大会で過去一度も勝利したことはありませんでしたが、今回は新しいムーブにチャレンジするなどの対策が功を奏し、嬉しい初勝利、そして初優勝となりました。

B-GIRL部門は、AYUMI（福島あゆみ）が決勝で、SHIGEKIXの姉AYANE（半井彩弥）との対決を制して3連覇を達成。圧倒的な強さを見せつけました。AYUMIもISSINと同じく、これからパリ五輪出場権をかけたOQS（Olympic Qualifier Series）を控えており、世界大会の舞台でも活躍が期待されます。

B-BOY表彰式　優勝ISSIN、準優勝HIRO10、第3位SHIGEKIX
布村幸彦JDSF会長（左端）、山名啓雄NHK専務理事（右端）

B-GIRL表彰式　優勝AYUMI、準優勝AYANE、第3位NANOHA
市原則之JDSF副会長（左端）、山名啓雄NHK専務理事（右端）

東急不動産ホールディングス
「Breaking World Match 2024」開催

2024年2月24日（土）、福岡市のマリンメッセ福岡に約2千名の観客が集合、バトルシーンの連続に館内は大歓声に包まれました。

この大会は、オリジナルフォーマットの大会であり、日本とアメリカ合衆国の世界ランキングポイント上位のB-BOY・B-GIRLが個人戦・団体戦のバトルを展開。日本からは、パリ2024に出場が内定しているSHIGEKIXをはじめ、Olympic Qualifier Series 2024（パリ五輪予選：OQS）に出場が内定しているISSIN、HIRO10、AMI、AYUMI、RIKO、そして日本のユース強化選手であるRA1ONが出場。アメリカからは、パリ2024に出場内定しているVictorをはじめ、OQSに出場内定しているGravity等、男女トップダンサーが集結。団体戦はTEAM JAPANが勝利し、RKB毎日放送よりTBS系列全国28局ネットで放映されました。

TEAM AMERICA

勝利のTEAM JAPAN

第27回 神奈川県ダンススポーツ選手権

2024年4月6日（土）／相模原市ギオンアリーナ

主催：神奈川県、神奈川県ダンススポーツ連盟　　主管：相模原市ダンススポーツ連盟

今年の神奈川選手権は2年ぶりに相模原市で開催。フロアが2面に分割された会場には各地から延べ370組（14区分）の選手が集結し、ホワイトン謙心組や安達揺一組ら地元選手への大声援が飛び交う中、各クラスで熱戦が繰り広げられました。注目の神奈川選手権Stでは、三笠宮杯チャンピオンの小嶋みなと・盛田めぐみ組が全種目を制して圧勝。一方のLaでは、ユースのチャンピオンでもある今西竜矢選手が、富山県の大西陽来里選手と新カップルを結成して鮮烈デビュー。ホワイトン組との大接戦（パソとジャイブが同点1位）を制して優勝に輝きました。また、関東甲信越ブロック選手権のシニアⅡA級戦は、Stが秋山・野村組、Laが西村・渡辺組の優勝となりました。

JDSF A級戦　スタンダード

小嶋みなと・盛田めぐみ（DSC神奈川）

守屋　駿・盛田舞香（DSC神奈川）

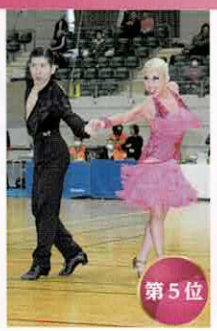
安達揺一・安達夏海（東京都）

山下晴之・磯部　愛（JrAC）

佐々木優・黒田水恵（東京都）

JDSF A級戦　ラテン

山本哲郎・工藤由美子（東京都）



村瀬賢一・小笹詩織（埼玉県）

福馬智生・泉名咲璃（東京都）

村田知紀・北見奈稚（DSC神奈川）

ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実（相模原市）

今西竜矢・大西陽来里（東京都）

ねんりんピック選考戦

スタンダード表彰式

ラテン表彰式

B級戦

スタンダード表彰式

ラテン表彰式

関東甲信越ブロック選手権 シニアⅡA級戦

スタンダード

スタンダード表彰式

秋山若士・野村由紀（DSC神奈川）

ラテン

ラテン表彰式

西村拓一・渡辺由紀子（東京都）

www.toto-dream.com www.toto-growing.com 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

JDSFと連携した「オンラインショップ」が本格稼働しました

デジタル・コミュニティ推進部 副部長
合同会社Dコミュニティ 代表
大谷 晃也

2023年11月からの試験運用を経て、2024年4月1日よりオンラインショップが本格稼働いたしました。この機会に、皆様に改めてご紹介させていただきます。

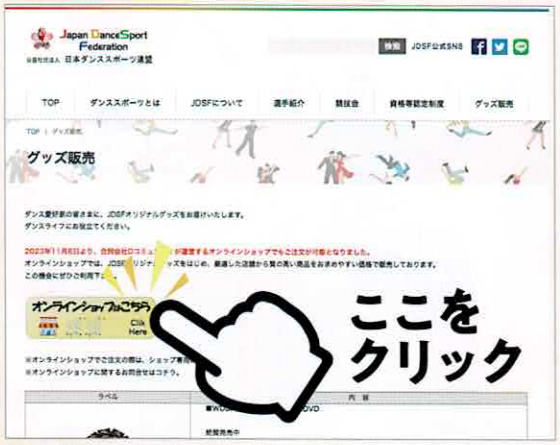
このオンラインショップは、JDSFデジタル・コミュニティ推進部の部員が中心となり立ち上げた「合同会社Dコミュニティ」がJDSFと連携して運営しております。JDSF会員やダンス愛好家の皆様を対象に、JDSFオリジナルグッズはもとより、厳選された店舗の魅力ある商品を提供してまいります。

現在はJDSF事業部と協力店舗が出店しておりますが、今後は店舗を増やし皆様にお役に立つ商品を揃えてまいります。特に、JDSF会員の皆様には、会員価格(10% OFF)の商品も多数ご用意しておりますので、是非ご利用ください。

ショップへのアクセスは、JDSFホームページの「グッズ販売」ページからどうぞ。なお、お買い物の際には、ショップ専用の「お客様登録」をお願いいたします。登録は無料で、年会費も一切かかりませんので、安心してご利用いただけます。また、現在のお支払い方法はクレジットカード決済のみですが、順次、決済手段を増やしてまいります。

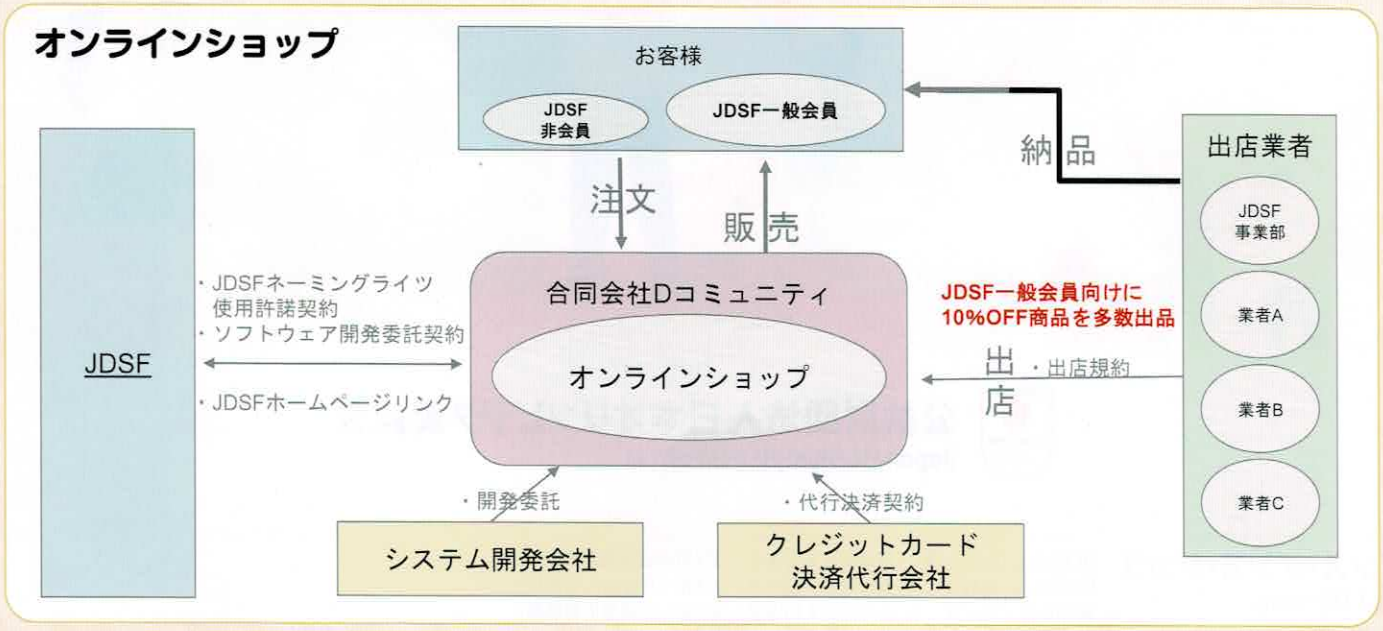
ぜひ一度、オンラインショップをご覧ください。パソコンでもスマートフォンからでもアクセスいただけます。また、お知り合いの方々にご紹介いただければ幸いです。なお、法人・個人を問わず出店できますので、販売ご希望の方はホームページの「お問い合わせ」からご連絡下さい。

皆様、よろしくお願い申し上げます。



JDSFオリジナルグッズ	レディース	メンズ
WDSFダンススポーツ教本＆DVD ダンススポーツCD 教材販売 その他	ドレス　ワンピース トップス　ボディー スカート　パンツ インナー　関連グッズ レンタルドレス	燕尾服・イカムネシャツ ジャケット・ベスト ラテンウエア シャツ・トップス パンツ 関連グッズ
ダンスシューズ	**化粧品**	**大会表彰用品**
レディース メンズ 関連グッズ	仕上用化粧品 メイク用具 その他	クリスタル トロフィー メダル

https://www.d-community.jp/shop/index.php



公益財団法人日本オリンピック委員会
Japanese Olympic Committee

ダンス・ダンス・ダンス
第111号(Spring)
令和6年5月発行

■発行人／山田　淳(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟副会長)
■編集人／神宮周二(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役)
■編集長／輿水洋一(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部長)
■企　画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
■発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階　TEL.03-6457-1850　FAX.03-6457-1857
https://www.jdsf.or.jp
©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。